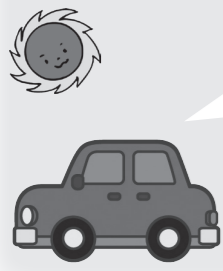


**危険！ 子どもを放置しないで！**

乳幼児は自分の力で移動することができないので、「少しの間だから」「寝ているから」と放置することは、とても危険です。特に、車内に置き去りにすることは、絶対にやめましょう！！




炎天下の車内の温度は、短時間で上昇します。チャイルドシートにも熱がこもります。乗る前に車を少し冷やす、保冷剤を活用するなどして、少しでも温度を下げるようにしましょう。

**通学中も、熱中症予防！**

町では、町立の小中学校の児童・生徒全員に、「冷却タオル」を1人2枚ずつ配布します。

これは、炎天下での通学における熱中症の予防を図るものです。



## 熱中症の症状と対処方法

### 【熱中症になったときには…】

#### 症 状

##### 【Ⅰ度】

めまい・たちくらみ  
筋肉痛・汗が止まらない

##### 【Ⅱ度】

頭痛・吐き気  
体がだるい（倦怠感）  
虚脱感

##### 【Ⅲ度】

意識がない・けいれん  
体温が高い  
呼びかけに対し返事がおかしい  
まっすぐに歩けない  
走れない

#### 対処方法

涼しいところで一休み  
冷やした水分・塩分を補給  
誰かが見守り、良くならなければ病院へ

Ⅰ度の処置に加え  
服をゆるめ、積極的に体を冷やしましょう  
（あおぐ、氷のうをあてる、等）



救急車を呼んで病院へ搬送しましょう

周りの人が熱中症になってしまったら…  
落ち着いて、状況を確認して対処しましょう。  
最初の処置が肝心です。

#### 乳幼児

こんな様子が見られたら、**急いで病院へ！！**

- 唇や皮膚がカサカサしている
- おしっこが普段よりも少ない
- 暑いのに汗をかいていない
- 顔色が赤い、または青白い
- 抱っこをすると体がほてっている
- 一日中、ウトウトしている
- ぐったりしている

#### こんな時は救急車！

- ★39℃以上の熱がある
- ★けいれんしている
- ★意識がない
- ★水を全く飲まない



#### 「暑さ指数」に注目しましょう！

暑さ指数(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目し、人体の熱収支に与える影響の大きい以下の3つを取り入れた指標です。単位は気温と同じ摂氏度(℃)ですが、その値は気温とは異なります。

①湿度 ②日射・<sup>ふくしゃ</sup>輻射など周辺の熱環境 ③気温

各地における暑さ指数の値は、「環境省 熱中症予防情報サイト」で確認できます。

【例】日時:令和2年6月15日(月)午後3時 場所:熊谷  
天気:くもり 気温:33.5℃ 湿度:46%  
暑さ指数:29.8℃(**厳重警戒**)

#### ●日常生活における指針

暑さ指数(WBGT)	注意すべき生活活動の目安
危険(31℃以上)	すべての生活活動
厳重警戒(28℃以上31℃未満)	すべての生活活動
警戒(25℃以上28℃未満)	中等度以上の生活活動
注意(25℃未満)	強い生活活動